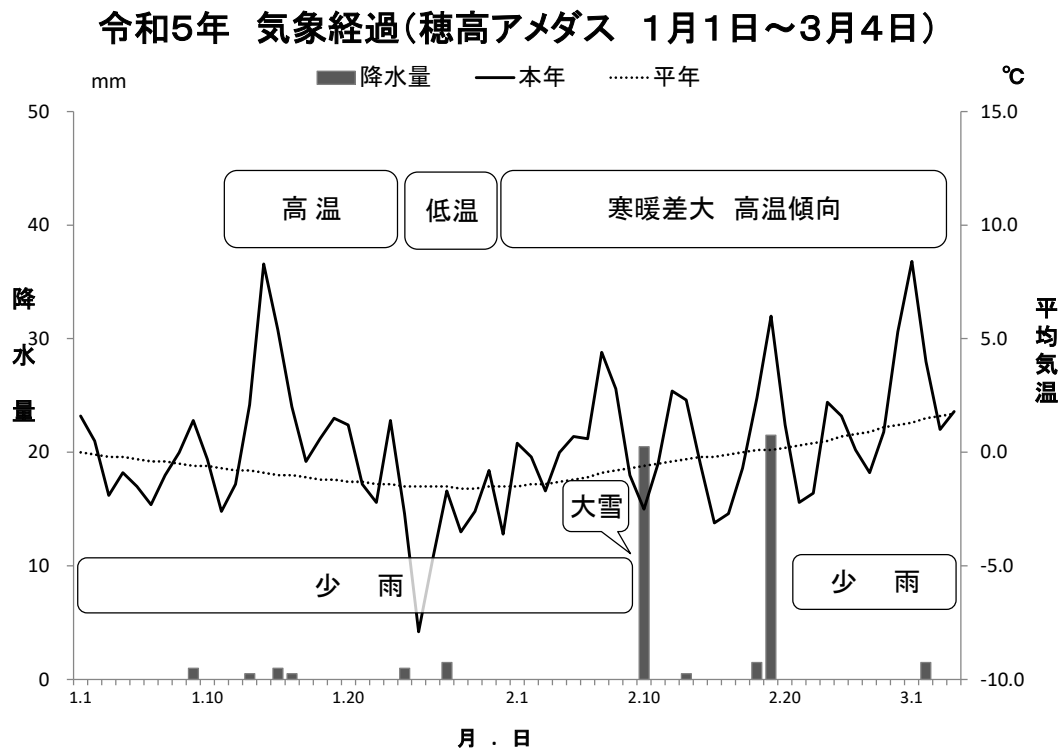


## 令和5年 作物技術情報第3号

### (麦の1回目の追肥作業と、水稻の浸種作業の注意事項について)

#### 1 気象状況



- ・ 1月中旬が高温、1月下旬が低温でしたが、概ね平年並みの平均気温で推移しています。2月中旬以降は寒暖の差が大きく、高温傾向となっています。2月上旬まで降水量がかなり少なく、2月10・19日の降雪・降雨で一旦は解消しましたが、2月下旬以降は再び、降水量が少ない状態が続いています。
- ・ 3月2日気象庁発表の1か月予想では、気温は平年よりかなり高いと予想されています。

## 2 現在の麦の生育状況と一回目追肥の注意事項

- ・ 高温傾向となっているため、技術情報2号でお伝えした2月初旬の生育状況より、かなり生育が進んでいます。また3月以降も高温が予想されているので、麦の生育はさらに進むと思われます。
- ・ すでに追肥作業が始まっていますが、追肥時には、再度生育状況を確認していただき、過剰気味の圃場では追肥量をやや控える、追肥時期をやや遅らせる等の生育にあった追肥をお願いいたします（追肥量や追肥時期の目安は技術情報2号をご参考下さい）。

## 3 水稻の浸種～催芽作業について

- ・ 水稻の浸種作業の時期が近づいています。浸種作業は育苗の重要なポイントです。基本事項を守り、育苗に向けた種子の準備を進めるようご指導ください。別添「水稻種子の取り扱い」もご参考下さい。
- ・ 3月以降も高温が予想されています。このため例年通りの浸種～催芽管理を行うと、思ったより早くから芽が動き、伸びすぎてしまう事も予想されます（昨年がこの様な年でした）。浸種～催芽作業にあたっては、今後の気温に注意し、芽の動きをよく観察して作業を進めるようお願いいたします。
- ・ ここ数年、大粒品種（特に酒米）で、発芽不良や出芽ムラが発生する事例が報告されています。この様な品種の浸種～催芽作業にあたっては特にご注意ください。
- ・ 前年と同じに機械のセッティングをしたにも関わらず、催芽ムラや発芽不良といったトラブルが発生する事があります。

前年と同じセッティングとしても、催芽機や出芽機が正常に動作している保証はありません。シーズンの開始時には必ず試し運転をして、温度の誤差がないかを必ずチェックしてから、本作業に入るようお願いいたします。

シーズン中は温度計を設置して毎日記録することもトラブル防止につながりますのでご検討ください。